



# 駒澤会だより

第32号

令和元年12月18日  
駒澤大学駒澤会 発行

## 歩々起清風

駒澤会会長  
森屋 正 治



令和の時代が幕を開けた 2019 年もういよいよ年の瀬に入りました。本年も駒澤会の活動にご理解、ご協力賜りましたこと会を代表いたしまして御礼申し上げます。

さて、振り返りますと私が駒澤会（昭和 46 年発足）に入会したのは平成 17 年のこと、当時は教育後援会役員を終えれば自動的に駒澤会へ入会するような時代でございましたから、教育後援会で会長を務めた私も当然のごとくこの駒澤会に入会したわけです。入会後はすぐに厚生部長を務め、副会長となり、平成 24 年に第 8 代目となる会長を仰せつかりました。それから 4 期 8 年目を迎えているわけですがその間、奨学金資金や活動資金を確保するため会費制度を見直したり、会員がより長く、より楽しく参加できる会の運営のため工夫を重ねたり、規程を改正し組織の強化を図ったり、父母としての活動を終えた後のエンドレスな親睦、交流団体として機能するよう努力したり、世界的不況の波に遭い資産運用で影響を受けたり、とにかくいろいろなことがありましたが、今もこうして大学役員の皆様方をはじめ、教育後援会、同窓会、関係各位、そして駒澤会役員、各部委員、全国の会員の皆様に支えていただきながら駒澤会は、駒澤大学の外郭三団体の一角を担い大学に貢献し続けて、大学と学生のために末永く存続していくよう願っております。

私事ではございますが、年が明け、新緑の季節を迎えます頃、会長職の任期を全うし、また新たな立場でこの会を見届けさせていただきます。会長としてこの「駒澤会だより」に登場するのはこれで最後となります。皆様方のご支援、ご理解にこの場をお借りしまして心からの御礼を申し上げます。ありがとうございました。これからも駒澤会を、そして駒澤大学をどうぞよろしく願い申し上げます。

## 令和元年度 駒澤会奨学金授与について

令和元年5月29日（水）、令和元年度の「駒澤会奨学金」授与式が執り行われました。

今年度も学業奨励を目的とし、各学部の成績優秀者に対して、一人20万円の奨学金が20名に給付されました。

今号では実際に給付を受けた奨学生の方々より、各学年を代表しコメントをいただきましたのでぜひご覧ください。

経営学部経営学科 2年  
浅野祐太さん



この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年度までの学業に対する努力がこのような形で報われましたこと、駒澤会の皆様には心から感謝申し上げます。

私には夢があります。「社会にインパクトを与えられるような経営者」になることです。そのために現在経営学部で勉学に励んでおります。私は経営学とは生きているうえで必要不可欠な学問だと思っております。その理由は私達が生きている以上、自分の人生を経営していると考えられるからです。例えば会社経営と同じく人生も「カネ」をどのように運用していくかで未来が変わってきます。経営学も一見、人生に関係がないような学問であると思われがちですが、このようにとても私達と密接に繋がっている学問なのです。

そして、こうして自分の学びたい学問をしっかり勉強できる大学4年間は人生において大変重要な時間です。大学では常に自分から新たな知識を獲得していくという積極的な攻めの姿勢が自分を成長させてくれると感じています。

大学の数も増え、大学進学という選択肢がひと昔前よりも浸透している現在だからこそ私たちは学びに対してもっと真剣に向き合っていかなければなりません。整った環境で充実した学習サービスを楽しんでいるという、この恵まれた境遇に甘んじることなく自分自身の成長を願い頑張っていくことが大切であると思っています。

さらにそこで学んだことを社会により良い形で還元していきたいと思っております。

改めて、駒澤会の皆様ありがとうございました。

文学部英米文学科 3年  
真下直子さん



この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年までの学業成績をこのようなかたちで評価していただいたこと、駒澤会の皆様には心から感謝申し上げます。

駒澤大学に入学してから早くも3年目になり、残り2年で自分がこの大学生活をより充実させるためにできることは何か、そして社会人になる前の準備として何が出来るのか、を考えるようになりました。入学する前には想像しなかった様々な経験を大学の授業やサークル活動、ボランティアなどを通して得ましたが、そのなかで特に印象深いのが、出会った多くの方々が海外へ行くことを勧めてくださることです。

昨年私は、大学を通した上海インターンシップに参加させていただく機会があり、そこで駒澤の学生だけでなく関東と関西のいくつかの大学からの参加者とともに1週間上海で生活しました。慣れない環境での初対面の人に囲まれた共同生活に加え、初めてのインターンシップというのもありストレスが大きく、数日間は早く帰りたいと思っていましたが、1週間を振り返ってみると仕事に対する新しい価値観と自国ではできない経験をする事ができ、また上海で働く日本人の方々のお話を通して仕事と人生との関わりを深く考える機会を頂きました。インターネットであらゆる情報を集めることが出来ても、島国である日本はなかなか別の大陸の雰囲気や慣習、本場の食を体験する機会に恵まれません。外の土地で生きることの難しさや面白さ、そこから生まれる発見や出会いはどれだけ経験しても損はないでしょう。しかしながら、大きな経験と金銭は切り離せないものであり、この駒澤会の奨学金を頂けたことは私を成長させるための新たなチャンスであり、大変嬉しく思います。

私は両親をはじめとするたくさんの方々に支えられ勉学に励むことが出来ており、そのことを忘れず感謝の気持ちを胸に残りの大学生活でも新たな経験を大切に、精進してまいります。この度は本当にありがとうございました。



[奨学金授与式にて]

経済学部経済学科 4年  
佐藤帆夏さん



この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年度までの勉学の取り組みをこのような形で評価して頂いたことを大変光栄に思います。

私は決断することを苦手としています。幼いころは単なる好奇心で決断できていたことが、年を重ねるごとにそれまでの経験値から憶測できる最悪の事態を考えては、目の前のどの選択肢にも足がすくむようになりました。しかし、いくら見えない将来のことを不安に思ったところで、それらは一歩踏み出してみなければわからない。だとするならばとりあえず今の自分の気持ちに従ってみよう。そう考えたとき、何カ月も悩んできた就職活動を終わらせることができました。

そのような考えを持てたのは、過去の自分の決断を振り返ってみたことがきっかけです。高校3年生の進路選択時、大学か専門学校か、この時も見えない未来の事ばかり考え、結局どの道に進みたいのかわからなくなることがありました。しかし、きちんと今を見つめ自分の気持ちと向き合ってみると、最終的には「勉強が好き」「もっと学びたい」という思いにたどり着きました。その結果、私は勉学に励むために大学進学を決意しました。今回、このように自分が好きでやってきた勉強を奨学生という形で認めて頂けたことで、ようやくあの時の決断を誇りに思うことができました。大学4年間で学んだ、どの選択肢を選ぶかよりも決断した先の行動が最も重要であるということを胸に、これからも目の前の事に精一杯取り組んでいきます。

駒澤会の奨学生として3年間連続採用していただきました。駒澤会の皆様にはこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。奨学生としての自覚と周りへの感謝の気持ちを忘れずに、これからも日々精進して参りたいと思います。



[授与式の様子]



[森屋会長の挨拶]

## 【駒澤会名誉会長交代のお知らせ】

学校法人駒澤大学総長の交代があり、前・池田魯参総長に代わり10月1日付で永井政之（ながい せいし）名誉教授が新総長に就任されました。あわせて、駒澤会名誉会長にご就任いただきます。

次号33号にてご挨拶いただく予定です。



[永井政之新総長]

## 大学の近況報告 & 駒澤大学NEWS

ここでは前号を発行した7月以降に大学で起きた様々な出来事の一部を報告させていただきます。

### 8月

駒澤大学硬式野球部 祖師谷グラウンドが完成 (1)

### 9月

本学陸上競技部 OB・中村匠吾選手がMGC（マラソングランドチャンピオンシップ）にて見事優勝！東京オリンピック2020男子マラソン出場内定！ (2)

### 10月

陸上競技部が「第31回出雲全日本大学選抜駅伝競走」に出場し準優勝 (3)

### 11月

オータムフェスティバルが大盛況にて開催

陸上競技部が「第51回全日本大学駅伝対校選手権大会」に出場し第3位

「第16回ホームカミングデー」が開催される

「スポーツフェスティバル in 玉川」が開催。地域の皆さんから大好評 (4)

(1)



(2)



(3)



(4)



教育後援会と駒澤会との懇親会に参加して

広報部委員・石川 美乃利



まだ暑さの残る 8 月 22 日に教育後援会と駒澤会の懇親会が新橋「新橋亭」で行われました。教育後援会からは執行部他、文化部からもご出席いただき、終始和やかな雰囲気では進み、時間が経つのが早く感じられました。

思えば、私も去年は教育後援会の一員として参加しており、その時はまだ一歩も二歩も引いて、駒澤会の様子や雰囲気を伺っていたのを覚えております。当日は不安でいっぱい気持で会場入りしたのですが、先輩方はとても優しく、穏やかで、やはり駒澤の雰囲気は変わらないということを実感いたしました。

今年は広報部の先輩方とお話しをしている中で勉強になることが多く、色々な方と接することの大事さも改めて感じております。

しかし、時代の流れには逆らえず、知らず知らずのうちに自分たちも変わっているようです。後援会も少しずつ考え方や雰囲気に変化が見られはじめました。そのような中で大切なのは、目的意識をぶらさずに思いやる気持ちを持って支え合うことだと思っています。駒澤会でも同じように先輩方が脈々と築かれてきた歴史と思いやる気持ちを大切に、後援会とも繋がれるように活動していきたいと思っております。



[森屋会長のご挨拶]



[和やかに盛り上がりました]

「教育後援会と駒澤会との懇親会」に  
参加させて頂いて

教育後援会副会長・石 井 晋 一



令和元年 8 月 22 日の暑い夜。初めて参加させて頂いたこの催しは、私ども教育後援会と駒澤会との懇親会。恒例の新橋亭で円卓を 4 つ並べて、心づくしのお料理を堪能致しました。更にスペシャルな紹興酒まで頂戴して、お陰様でとても楽しく有意義な一時を過ごさせて頂きました。

いずこの円卓でも両会の面々でお話しがおおいに弾み、卓を跨いでの懇親も一層に深まってきました。これは偏に駒澤会の皆様のお人なりと包容力と優しさなどなどに尽きるものと拝察しております。本当に有難うございました。心より御礼を申し上げます。

これからも学生諸君へのサポートは勿論のこと、駒澤会の皆様のように、会員同士の交流も楽しみながら、物事に取り組んでいくことの大事さを学ばせてご教示頂きました。駒澤会の皆さんとの一時を過ごせたことに感謝するとともに、益々の弥栄をお祈り申し上げます。



[最後は全員で記念写真]

☆☆☆☆☆☆☆☆**駒澤会新規会員募集中**☆☆☆☆☆☆☆☆

駒澤会では新規会員を随時募集しております。ご友人、お仲間に駒澤大学ご出身のお子さまがいる方はいらっしゃいませんか？縁のある駒澤大学を応援しつつ、様々な行事をとおして楽しく交流しましょう♪

**【問い合わせ先】駒澤会事務局 03-3418-9189まで**

## 紀元二千六百七十九年の深呼吸

総務部部长・山田直重



令和元年10月5日（土）から一泊二日の駒澤会「秋の研修会」が行われました。今回は貸切バスで奈良県まで出かけました。目的は、久保田前副学長先生のご紹介による橿原神宮正式参拝と、そこで長谷部学長先生の講演を受講することです。

私の旅は土曜日の朝始発のバスに乗るためバス停に立つ事から始まりました。集合場所は用賀駅前で学長先生も一緒に貸切バスに乗車されました。用賀駅前を出発した貸切バスは東名高速道路を走り一路奈良へ、午後3時半過ぎに橿原神宮（写真：内拝殿）に到着しました。橿原神宮は初代天皇とされている神武天皇が祀られている日本建国の聖地であります。バスを降りて内拝殿に向かう南神門脇には紀元二千六百七十九年の文字が掲げられ日本の歴史の中に入って行くような時空間で一同お祓いを受けました。参拝後、橿原神宮会館に場所を移して学長先生の講演を受講しました。学長先生は古事記や日本書紀などに書き残された神武天皇が日向（現在の宮崎県内）を発って東に向かわれた東征のあらましや、この地で即位された事を掘り下げてお話をくださいました。書物に残された話の中には神話が含まれているようですが古代の日本を知る上で大いに興味をそそられる講演でした。土曜日は橿原神宮からバスで10分ほどの所に宿泊しました。

翌日の午前中はバスで明日香路を巡りました。まずもう一度橿原神宮に立ち寄りバスを降りて散策しました。次は日本最古の神社と呼ばれ、三輪山を御神体とする大神（おおみわ）神社を参拝しました。続いて7世紀の初め頃の古墳で天井部に77トンと64トンの巨石が使われた石舞台を見学しました。その天井石の大きさには重機も無い時代に果たして何処からどのようにして運んで来たのかと驚かされました。そのあと飛鳥寺を訪ねました。飛鳥寺では本堂の銅造釈迦如来坐像の前に座り、ガイドの方からここは蘇我馬子が建立した日本最初の仏教寺院であって中心に建つ五重塔を囲んで中金堂、東金堂、西金堂があった事などの説明を聞きました。明日香路を巡るバスの窓からは万葉集にも詠われた畝傍山、耳成山、香具山を眺めることが出来ました。その後昼食を済ませてからバスは来た道を戻り再び用賀駅前に辿り着きました。

日曜日はほぼ最終のバスで自宅に帰り、この旅で見てきた二千六百七十九年変わることのない木と石と水と緑と黄金色に輝く稲穂を思い返しながら眠りに付きました。最後となりますがこの機会を与えて下さった駒澤大学ならびに関係者の皆様ほんとうに有難うございました。





## 『駒澤会・秋の研修会』

檀原神宮参拝・講演会に参加して

総務部副部長・軽部 雅美



令和元年にふさわしい檀原神宮参拝と長谷部学長先生の講義に、参加致しました。

私は、以前から檀原神宮を訪れることを願っており、やっと思いが叶えられました。参道を歩き、南神門で檀原神宮の方が、待っていてくださいました。案内された先が、びっくりして驚いてしまいました。なんと、内拝殿の中に通してくださいました。そこで、玉串奉奠、参拝をして御神酒を頂きました。さらには内拝殿と外拝殿の間にある外院斎庭にまで入ることができ、皆で記念写真を撮りました。本当に貴重な体験をさせて頂き感激です。宮司さんのお話も直接伺えて、本当によい思い出になりました。帰る頃には、暗くなり社殿や灯笼に灯がとり、すばらしい光景で、それもまた感動致しました。

学長先生の講演では、檀原神宮の近くに、飛鳥寺、明日香村などがあることもあり、大和・飛鳥時代の政権に関する内容で、講義が始まりました。

神武天皇は、初代の天皇で、高千穂から東に向かって、畿内にわたり、最終的に檀原の地で即位され、奈良を都とし日本を建国したとされます。飛鳥時代に入ると、仏教公伝、物部氏や蘇我氏といった有力豪族の台頭があり、蘇我氏が実権を握りますが、その後天皇中心の政治による法体制が進み中央集権化するなど、律令体制が図られていきました。学長先生の講義は、その土地の歴史にリンクしていたので、とてもリアルで勉強になりました。

最後に、今回またとない体験ができましたこと、このような機会を設けて頂きましたことに深く感謝いたします。



[外院斎庭での記念写真]



[2日目：明日香村・石舞台古墳にて]

『駒澤大学教育後援会  
創立 60 周年記念式典・祝賀会』に参加して

広報部部長・荒井 喜久子



令和元年 11 月 30 日（土）、駒澤大学深沢キャンパスにて「駒澤大学教育後援会創立 60 周年記念式典および祝賀会」が行われました。私たち駒澤会からは森屋会長、一戸副会長、赤堀副会長、高見相談役と広報部から荒井が出席致しました。

11 時、管弦楽団の学生たちが奏でる入場演奏が私たちを迎えてくれました。一生懸命で美しい音色にとっても感動しました。

記念式典は、教育後援会・細谷牧子副会長の開会のことばに始まり、続いて田中弥生会長の挨拶がありました。「教育後援会は創立 60 周年を迎え、ここからまた新たに 100 周年を目指して大学の発展を支える存在として、平成を越えて令和の時代も“進”をテーマに邁進していきたい」との力強い詞がありました。その後来賓の祝辞があり、昭和 34 年に発足された教育後援会の歴史の深さにあらためて感嘆致しました。続いて「記念品贈呈式」があり、我々が駒澤会の森屋会長へ感謝状と記念品が贈呈されました（右写真）。



式典の後、仏教学部・石井清純教授により「禅のひろがり」と駒澤大学」の題にて記念講演が行われました。「“禅”の教えと基本思想」「日常生活のすべてが、仏としての自己の表現」など、とても印象深いお話で、式典に花を添えるような講演でした。

教育後援会は長年、大学だけではなかなか手の行き届かない部分、例えばキャンパスの環境改善などの学生支援も行っています。また、毎年箱根駅伝の応援に出向き、過去には付属高校の甲子園応援にまで行きました。駒澤への熱い気持ちがとても素敵だと感じました。

そんな教育後援会のエッセンスはその後駒澤会に受け継がれ、奨学金による学生支援を継続しています。我が駒澤会も、駒澤大学応援の 3 本柱の一角として、ますます力を入れて頑張ろうとあらためて感じさせてくれた素晴らしい記念式典でした。



## - 基金管理委員会からのお知らせ -

基金管理委員会より、前回会報にてご報告した以降の運用状況について、以下のとおりお知らせ致します。

- 役員全員承認をもって新たに「第 20 回みずほフィナンシャルグループ劣後債」を野村証券より購入しました [購入額 1,000 万円、償還日 2029 年 10 月 30 日 (5 年後償還可)、利率 0.39%]

運用先	7月～11月までの利金	備考
野村証券	42,344円	みずほ・三菱UFJ社債
みずほ銀行	868円	定期預金利息
世田谷信用金庫	2,541円	定期預金利息
合 計	45,753円	

基金管理委員会 委員長

## - 各部入部のお誘い -

駒澤会会員の皆さまに、駒澤会の運営に携わる各部への入部をお誘いしています。

会の運営は、以下の3つの部に分かれて活動しています。2～3ヶ月に1度ほどのペースで会議を行っています。

ぜひ一緒に、駒澤会の活動を盛り上げましょう！入部をお待ちしております。

希望される場合は、駒澤会事務局・日幡（ヒバタ）までご連絡ください。

TEL:03-3418-9189/FAX:03-3418-9190

総務部	駒澤会の規程や運営費について検討し、活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。
広報部	会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、様々な意見を出し合い和やかに進めています。
厚生部	会員の皆さまが楽しく有意義な時間を過ごせるよう、各種行事を検討しています。

## - 入会者ご芳名 -

駒澤会にご入会いただき誠にありがとうございます。新規会員の皆様のご芳名を掲載させていただきます。今回は令和元年7月1日から令和元11月末日までの期間にご入会いただいた方を掲載します。なお、掲載の同意が確認できなかった方は匿名とさせていただきます。

田中 克則 様			
			以上 1名

## 編集後記

今年は今相次ぐ台風、記録的豪雨、河川の氾濫など、多くの被害に見舞われた年でした。私も千葉県在住で15号の際には数日の停電、19号後の豪雨では2階が雨漏りし、今も屋根にはブルーシートが掛かった状態です。被災された多くの皆様には、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

時代は平成から令和に変わり、11月9日「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」、11月10日「祝賀御列の儀」が行われました。11月9日の国民祭典で嵐が歌った奉祝曲「Ray of Water」では、何度も「大丈夫……」という歌詞が出てきましたが、「色々あるけれど大丈夫！これからも頑張っていこう。」と励まされているようで、とても心に残るフレーズでした。

今年も残りわずか、来年は災害の少ない幸多き1年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

広報部委員 山本 久美子

### 事務局からのお知らせ

【大学行事予定】		【駒澤会行事予定】	
12/25～1/6	冬季全学休業期間	1/3	箱根駅伝応援企画（★）
2/4～8	2月一般入試	1/25	役員会
3/7	3月一般入試	2/11	駒澤会新年賀詞交歓会（★）
3/23・24	卒業式	3/14	役員会

※（★）は案内を同封しております。

【駒澤会ホームページのご案内】




スマートフォンはこちらからアクセス →



【秋の研修会より】

駒澤大学  
駒澤会



駒澤会だより 第32号

発行日：令和元年12月18日

発行者：駒澤大学駒澤会 広報部

〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1

TEL：03-3418-9189 / FAX：03-3418-9190